

千波湖周辺の「水生生物」を観察しました

～第7回千波湖環境学習会～

前日から降っていた雨が、9月30日開催の千波湖環境学習会の間はまったく降ることなく、無事に観察を行うことができました。また、直前まで雨が降っていたため、参加者が集まるか心配していましたが、この日を楽しみにしていた熱心な親子12名が集まりました。

今回、水生生物の採集と観察をしたのはハナミズキ広場の脇を流れる小さな水路です。生き物の取り方や注意事項のレクチャーを受けたあと、早速、全員で採集を開始しました。

はじめはコツが掴めず、なかなか生き物を捕まえられなかった参加者も、徐々にコツを掴んで生き物を捕え始めました。たも網を使って生き物を採集するには下流に網を入れ、上流の方から足で追い込んだり、草の茂みに差し込んだり、石の下流側に差し入れてから石を動かして、その下に隠れている生き物を捕まえるなどの方法があります。このような、たも網による生き物採集を「ガサガサ」といいますが、上手に捕まえるには作戦が大事です。また何が採れるかも楽しみで愛好者がたくさんいます。今回の観察会でも「ガサガサ」の面白さに多くの参加者が目覚めたようです。

採集した生き物は、魚類がヌマチチブ、ウキゴリ、ヨシノボリの3種類のハゼの仲間、それから、大きなコイを捕まえた猛者もいました。水生昆虫ではきれいな水に生息するヘビトンボの幼虫やオニヤンマのヤゴ、また甲殻類では、スジエビを中心にテナガエビや立派なモクズガニも見つかりました。

7月29日には千波湖内の魚を観察しましたが、そのときに観察した生き物と今回見つかった生き物では、かなり顔ぶれが異なりました。千波湖内ではテナガエビが多いのですが、今回水路ではテナガエビより水質の良い場所を好むスジエビが多く見られ、またきれいな水の指標生物となっているヘビトンボの幼虫が見つかるなど、この水路の水質の良さがわかりました。

最後に、今回の学習会に乾燥スープを提供していただいたMCフードスペシャリティーズ株式会社様にお礼申し上げます。

